

十、生徒は成るべく何れかの部に屬して娛樂修養を偕にするを希望すると同時に一人にてあまり多くの部に入るは却つて學業に妨げあると思はるゝに付三部以内に止むること

十一、各部は二十五名以上を單位とすること

十二、從來は部費を徴する部と徴せざる部とありたるやうなるが今後は必ず部費をとること

十三、新に支部の制を設け各地在住の卒業生が親睦を圖らるゝやう希望すること

十四、基本金の制を確立し後進誘掖の方策を講ずること

(『東京美術学校校友会月報』第三十一卷第七号)

#### ⑨ 校歌、學生歌を作る

本校にはもともと校歌は無く、自然発生的に生まれた「チャカホイ」が言わば本校の愛唱歌として歌われていたが、昭和七年、和田英作校長就任後の改革氣運の下で正式の校歌と學生歌を作らうという動きが生じ、校友会文芸部が中心となつて月報誌上で懸賞募集を行なつた。しかし、適當なものが集まらなかつたため、改めて作詞を川路柳虹に、作曲を山田耕筈に依頼して昭和八年春に校歌と學生歌が作られた。その経緯と歌詞、曲は次のとおりである。

#### 校歌、學生歌の完成

作詞家の詮衡に就ては委員會の協議の結果、本校卒業生で詩人たる川路柳虹氏が、本校の傳統的氣分等にも理解があり、比較的  
我儘に吾人の希望も申し入れられる便宜があるといふ譯で、同氏

に御願ひすることにした。それで生徒よりの應募原稿は全部參考資料として同氏の手許に差し出した。其中どれを——或は何の部分を參酌されるか、又は其儘採擇されるかは總べて同氏の採量にお委せすることとした。

其後同氏から本年早々原稿を頂戴しました。仍で前記委員會に發表し種々學校としての要求及び作曲上の要求に適切であるや否やを研究した上、川路氏には御迷惑だつたが、再度多少の推敲を願つて茲に始めて歌詞が完成されたのでした。

作曲は始め鑄木欣作氏に御依頼する筈であつたが、同氏は自ら作曲することを辭され、同氏の恩師である山田<sup>耕筈</sup>作氏を煩はす様多大の盡力をして下さつたのである。山田<sup>耕筈</sup>作氏は本校とは相當古くから因縁のある方なので、寧ろ進んで引受けて下さつたのは誠に望外の幸であつた。しかも同氏は露西亞行き直前の繁忙な際にも拘はらず、新學年に間に合ふようと早速、作曲を完成して下さつたのである。

斯様な経緯で出來たのが、今度の校歌、學生歌であります。これなら何處に出しても恥しくないどころか、將來我校の誇りの一つとなるだらうと思ひます。

學校長始め委員會で御配慮を煩はした方々に完成後、直ちに御報告申し上げる筈でしたが、曲譜等の印刷は簡單に参りませんで、大に遅れた次第です。本報告を以て其代りと致しますから悪しからず御思召願ひます。

【追記】川路柳虹氏は當方より御依頼した校歌、學生歌以外にも、本校各科を詠じたチャカホイ正調十數種を書き送つて下さ

れましたから此機會に校歌、學生歌本文と共に發表致します。

(以上森田〔亀之助〕記)

### 東京美術學校々歌々詞

緑かゞやく上野の森、

燃えたり、わかきわかき希望。

美術に生くる吾ら。

高き理想、

深き技術、

はげめよ永久に、拏めよ永久に。

歴史に誇る不朽の名

巨匠の搖籃こゝにこそ見よ。

### 東京美術學校學生歌々詞

一

鐘が鳴つたか、上野の鐘が、ホイ

花も曇りの彌生月。

伊達にや持ちやせぬ繪具箱、

ヨイト、ホイ、

今日も寫生に、ホイ、アラ苦勞する。

ア、ヨイトホイ。

二

鳥啼いたか、上野の鳥、ホイ、

いつも馴染の森のかげ。

伊達にやのばさぬ無精ひげ、

ヨイト、ホイ

今日も仕事で、ホイ、アラ朧忘れ。

ア、ヨイトホイ。

三

空は晴れたか、あの青空に、ホイ

遠い筑波の立ち姿。

伊達にボンヤリ見てはゐぬ、

ヨイト、ホイ

生きたモデルの、ホイ、アラ曲線も。

ア、ヨイトホイ。

四

心晴ればれ、朝日のやうに、ホイ

今日ぞ出かした朗らかさ。

伊達に製作眺めやさせぬ<sup>(せぬ)</sup>

ヨイト、ホイ

永い苦心の、ホイ、アラ、痕を見る。

ア、ヨイトホイ。

(以上歌曲は前號〔後出〕に登載済)

チヤカホイ正調

川路柳虹作

(一) 風は春風、櫻は上野、

中に美の字のあの徽章。

(二) 青い若竹、若枝の青葉、  
水に濡れゝば玉が散る。  
(チャカホイ)

(三) 森で騒ぐは上野の鳥、  
阿呆、阿呆と啼いてゐる。  
(チャカホイ)

(四) 何と云はりよが繪かきになる身、  
筆が生命の二本差し。  
(チャカホイ)

(五) 白いカンブス一筆染めりや、  
空は碧の日本晴れ。  
(チャカホイ)

(六) 土くれなどと粗末にするな、  
ひとつひねれば血が通ふ。  
(チャカホイ)

(七) 夜叉も佛も刀のまゝよ、  
彫れば木屑も神になる。  
(チャカホイ)

(八) 粹な衣裳も、金目の部屋も、  
元はデザイン、腕を見ろ。  
(チャカホイ)

(九) 日がな一日タガネで暮らす、  
金は世界の廻りもの。  
(チャカホイ)

(十) 奈良の大佛、たゞでは出来ぬ、  
ふいご吹いたり、金鑄たり。  
(チャカホイ)

(十一) ジャパンといふ名で知られた日本、  
漆や世界の立役者。  
(チャカホイ)

(十二) 黒いポールド、線引くチヨーク、  
口ぢや描けない繪のこゝろ。  
(チャカホイ)

【附記】 學校歌曲演奏會に於て、學生歌として評判宜しかりし熊本醫大豫科の歌曲に就ては、本校生徒主事佐々木卓氏の御盡力に依り、熊本醫大當事者より、該曲を其儘或ひは改削して使用することの許可を得ました。茲に舊文學部長として、同氏に謝意を表します。

(森田(龜)記)  
『校友会會報』第一号)

東京美術學校々歌

川路柳虹作詞  
山田耕筰作曲

Maestoso

ben marcato

みどりかがやくうへののもりもえたりわー  
かきわーかききばう 美-じゅつにい-く-るわ  
れ-ら たかきりさう ふかきぎじゅ  
っ はげめよとは につとめよとは-に れきしにほ  
こる不朽—の 名 巨匠-の 協-らんこここそみよ

The musical score consists of five systems, each with a vocal line and a piano accompaniment. The tempo is marked 'Maestoso' and 'ben marcato'. The piano part features various dynamics including *f*, *ff*, and *mf*. The vocal line includes lyrics in Japanese. The piano accompaniment includes a triplet in the third system.

東京美術學校學生歌

川路柳虹作詞  
山田耕筰作曲

あかるく(民謡的に)【M.M.♩ = 70】

1.か ね が す な つ た か  
2.か ね ら が す な な い た か

うへ の の の か か ね ら が す ほい ほい  
うへ の の の か か ね ら が す ほい ほい

は い な つ も く な も り の  
は い な つ も く な も り の

や り の の つ か き げ  
だ だ て に も の ち せ き ぬ

ぶ の ぐ ば こ げ ヨイトホイト  
ぶ の ぐ ば こ げ ヨイトホイト

今 日 も 寫 生 事 に ほい ア ラ ど う わ す  
今 日 も 寫 生 事 に ほい ア ラ ど う わ す

る ア  
る ア

ヨイトホイト  
ヨイトホイト

『東京美術学校校友会月報』第三十一卷第七号